

なら 賑わい通信

発行：奈良市中心市街地活性化協議会事務局

〒630-8586 奈良市登大路町 36-2

(奈良商工会議所内)

TEL：0742-26-1666

E-mail：narachukatsujimu01@yahoo.co.jp

URL：http://www.nara-cci.or.jp/chukatsu/

発行日：2010年6月10日

第30号



みんなの、私たちの平城遷都1300年祭。 まちなか 1300年祭

みんなの力で無事に終了



奈良市中心市街地活性化研究会主催（もちいどのセンター街理事長の松森重博氏が会長）で5月22日から30日までの9日間開催された「まちなか1300年祭」はみんなが力を合わせて無事終了しました。

9日間ずっと通して行われた「龍頭船遊覧体験」、これは毎年中秋の名月の日に猿沢池で行われる奈良の年中行事「采女祭り」で使用される管絃船（龍頭船・鶴首船）を春日大社さんよりお借りし、この「まちなか1300年祭」のひとつの企画として一般の人達にも乗船していただき猿沢池からの遊覧体験を味わっていただくとう実施されました。23日・24日は雨のため運行は中止されましたが、期間中多くの方々貴重な体験をされました。



次に、29日に実施された「1250年みこし」、このみこしは50年前に「奈良遷都1250年祭」の時代行列に制作、使用されたもので当時、奈良市観光協会会長の故谷井友三郎氏が、個人資産を投じて制作されたもので、その後奈良市に寄贈され「なら100年会館」に展示されていた貴重なみこしで、これをお借りし、50年後の奈良の街を担う子供たちに今回奈良の中心市街地の商店街を引いていただき、後世に引き継いで行って欲しいと実施されたものです。また今回は、このみこしの他に5年ぶりに復活した東向商店街の「ギャルみこし」、もちいどのセンター街からの「子供みこし」などによっても、この「まちなか1300年祭」を大いに盛り上げていただきました。



また、29日・30日には、ヨーロッパ地域とシルクロード地域の食と文化をテーマにした「マルシェ」や「ステージイベント」などがヨーロッパ広場（旧奈良銀行跡地）とシルクロード広場（南都銀行本店駐車場）の2ヶ所で開催されました。マルシェではトルコ雑貨やインドネシア・アジア民芸品などの物産品や、チキンカレーやタイ風ヤキソバなどの食品やタピオカココナッツミルクなどの飲料水が販売され、一般市民や観光客のほか外国からの観光客などが、飲食をされたり、色んな商品を見定めておられたりして楽しんでおられました。ちなみにマルシェは両広場に26店舗が出店されていました。

また、ステージではフラメンコやベリーダンスなどの踊りや、琉球太鼓の演奏などに観客のみなさんも聞き入っておられました。



次に大きなイベントとして30日に実施された「平城シルクロードパレード」、このパレードは天平衣装に身を包んだ一般応募による参加者で主に構成され、総勢約400人によるパレードで広島県呉市よりお借りした遣唐使船の10分の1のミニチュアの山車を先頭に午後2時にJR奈良駅前広場をスタートし、猿沢池横の興福寺52段前まで約1時間半程かけての天平パレードが行われました。

このパレードには市内や県内のほか兵庫県宝塚市や大阪府泉南市、和歌山県橋本市などから海外からの留学生などからも応募があり国際色豊かなパレードとなりました。



最後に、30日は興福寺52段前でもステージイベントが開催され、主催者挨拶に続き仲川奈良市長のご挨拶がございました。その後、奈良県立朱雀高校の和太鼓部「和太鼓 秋篠」による和太鼓や奈良市立都跡小学校マーチングバンド、生駒市立桜ヶ丘小学校ハーモニックバンドクラブなどの演奏などで盛り上がり、ファイナルステージの最後に、関西出身の女性4人組ダンス&ボーカルユニット「Pixy Chicks」によるステージで9日間実施された「まちなか1300年祭」を終えられました。



奈良市中心市街地活性化協議会事務局もこの祭の事務局を引き受け、本当に大変でしたが、中心市街地の活性化のお役に立ててよかったと思っております。

「第5回近畿中心市街地活性化ネットワーク研究会」が 大津市において開催

5月21日（金）午後1時30分から「第5回近畿中心市街地活性化ネットワーク研究会」が大津市勤労福祉センター5階ホールにおいて開催されました。

当日は、北は福井県福井市、南は和歌山県田辺市など近畿一円の14市から行政、中活協議会、まちづくり会社、商工会議所の担当者が、また近畿経済産業局並びに中小企業基盤整備機構近畿支部などの関係者55名が参加、これまでで一番多い参加人数で開催されました。

冒頭、地元開催地の歓迎挨拶として大津市中心市街地活性化協議会の酒井英夫会長より、大津市は琵琶湖と山々など、自然に恵まれた立地であり多くの方々に、この大津を訪れて頂ければ幸いかと思っております。そして今日は、皆様方のお話をお伺いして十分に勉強いたしたいと歓迎のご挨拶をいただきました。

引き続き、大津市都市計画部都市再生課長の山田和昭氏より「大津市中心市街地活性化基本計画と（株）まちづくり大津の取組み」～なぎさのテラス・旧大津公会堂テナントミックス事業について概要説明を受けました。



平成15年から大津まちなか元気回復委員会の活動・大津百町の町屋再生研究会の取組み・再開発ピルの再生・各種実行委員会によるイベントといった市役所と地域住民とNPO法人などとの連携が始まりました。そして平成19年度からは地元商業者と地元企業、商工会議所などの新たな参画により平成20年1月23日にみんなで4,800万円を出資され「株式会社まちづくり大津」を発足。また同日、大津市中心市街地活性化協議会が設立され、みんなで連携・企画という観点から「活性化協議会プロジェクト設置」に至ったとのことです。その後平成20年7月に大津市中

心市街地活性化基本計画が国の認定を受けられました。

基本計画の概要は、大津らしい活性化とは・大津らしい素晴らしいものを生かすということから「びわ湖と湖岸に広がる公園」・「町屋をはじめとした大津百町の歴史的資産」・「点在するこれまでに整備されてきた既存施設」、これらを活かし、湖岸で賑わいを創出し、その賑わいをまちなかへと言うことで平成20年度はオープンカフェ整備、イルミネーション事業を、また平成21年度は「湖の駅」整備、旧大津公会堂整備、既存施設連携による「秋の音楽祭」などに取り組みされたとのこと。リーディングプロジェクト概要としての第1弾は、なぎさ公園テナントミックス整備事業のオープンカフェ「なぎさのテラス」を平成21年4月23日にオープン。第2弾は民間企業の琵琶湖汽船(株)が事業主体となり、アミューズメント施設の空きスペースを活用して、賑わいを創出しようとする琵琶湖湖岸エコツーリズム拠点「湖（うみ）のえき」を平成22年3月20日にオープン。第3弾は、昭和9年に建設された歴史的建造物である旧大津公会堂の耐震改修・外観修景・内部リノベーションを行うことによる賑わい創出、旧大津公会堂は平成22年4月23日オープンされたとのことでした。平成22年度から、いよいよ



よ（まちなか）事業としてのまちなみ整備事業、修景補助事業、区画整理事業、市街地再開発事業、寺町通り再生事業、旧町名活用事業、登録文化財を活かしたまちづくり事業に取組んで行かれるとのことでした。

続いて、大津市中心市街地活性化協議会町屋利活用プロジェクト委員の柴山直子氏より プロジェクトの取組みについて説明がありました。



江戸元禄時代に町の数が 100 カ町あったということで、その賑わいが「大津百町」と称され、柴山さん自身も、この「大津百町」の中で住んでおられ、建築士で建築事務所も町内に置いておられるとのこと。いまだに自治会活動は旧町単位でおこなっておられ、江戸初期に始まった湖国三大祭のひとつ「大津祭」は「大津百町」に住み、そこで生活をされている町衆の歴史を伝える重要な伝統行事となっているそうです。自治会の単位が旧町で有ることや、大津祭に対して、町衆の気持ちや思いや感情、何とかしようと言う部分に凄く興味深く印象付けられ、ひと＝町衆、いえ＝町家、まち＝町並みで、大津と言うのは非常に歴史的、文化的にも豊かで、生活文化と歴史的な文化を色濃く残した町なんだなと感じていますと話されていました。まちなかを活性化して行くにあたって、大事なものは地元の住民だと思いますが、決して住民みんなが熱心ではなく思いを伝えて一緒に行動してもらうことに凄く苦労されているのでは。とも話されそんな中で、毎年責任者を選び、この責任者が集まって運営されている NPO 法人「大津祭曳山連盟」が平成 16 年 12 月に発足しているとのこと。一般的に言われている事ですが、商業者を中心とした中活は難しく、大津市も同様で有ったと思いますが、大津祭の曳山連盟を地元住民として巻き込んで市と連盟の関係者、色んな方々が入って NPO と言う話になったとのこと、これが凄くうまくいっていると思うとのことでした。次に町

家利活用プロジェクト会議から生まれた事業としてひとつは「大津百町市」の開催、次に「旧町名看板の復活」それと「祭りちょうちんの似合うまちなみ関連事業」、なぜここで「祭りちょうちん」と言うのと、地元の人をどういう風に巻き込むかと言うポイントに当たるのが「祭り」なんですねとおっしゃっていました。大津祭りだよと言うと興味を持って動く人が沢山いる。そこでどういう町並みにしていくかと言う時に、単に町家保存と言うと保存したくないという方もおられるし、ベクトルがなかなか同じ方向に向かない。ただ祭りちょうちんの似合う町並みと言えば、どんな形かとはたまたま、ひとつの方向性が持てるのではと思います、このことをひとつの基本方針として、町家しょうぼうかん・登録有形文化財を活かした事業となると言ったお話を聞かせていただきました。

続いて今回は、三班に分かれ、なぎさのテラスからなぎさ公園、湖の駅から明日都浜大津、菱屋町商店街から旧東海道（アミティー他）、丸屋町商店街から旧大津公会堂を大津市の山田課長様ほか大津市の方々の説明を受けながら各施設などを視察させていただきました。



その後、会場を旧大津公会堂 3 階ホールに移り、同研究会プログラム第 2 部となっているワークショップ、テーマは「如何に多くの関係者を巻き込むか？～うまく出来ていること・出来ていないこと～」サブテーマ①住民等の巻き込み方について、サブテーマ②商業者等の巻き込み方について、それぞれ 6 名から 7 名の 6 班に分かれ、それぞれの取組み事例などを報告し、それに対する意見を出し合い、まとめを班の代表者が皆に発表するという形で行われました。

その後、今年度の研究会の進め方等について事務局より報告され、次回は滋賀県長浜市での開催が報告され今回の研究会は終了しました。